

# 稲作情報(Vol.5)

令和8年7月2日  
石巻地方米づくり推進本部  
宮城県石巻農業改良普及センター  
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999  
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

## 6月下旬の気象経過

6月第4半旬以降は気温が低く推移し、特に6月第5半旬は平均気温が平年より3.8℃低くなりました。日照時間は第5半旬で少照となりましたが、概ね平年並みとなりました。6月20日の梅雨入り後はまとまった降雨があり、6月20日から23日にかけて104mmの降水がありました。

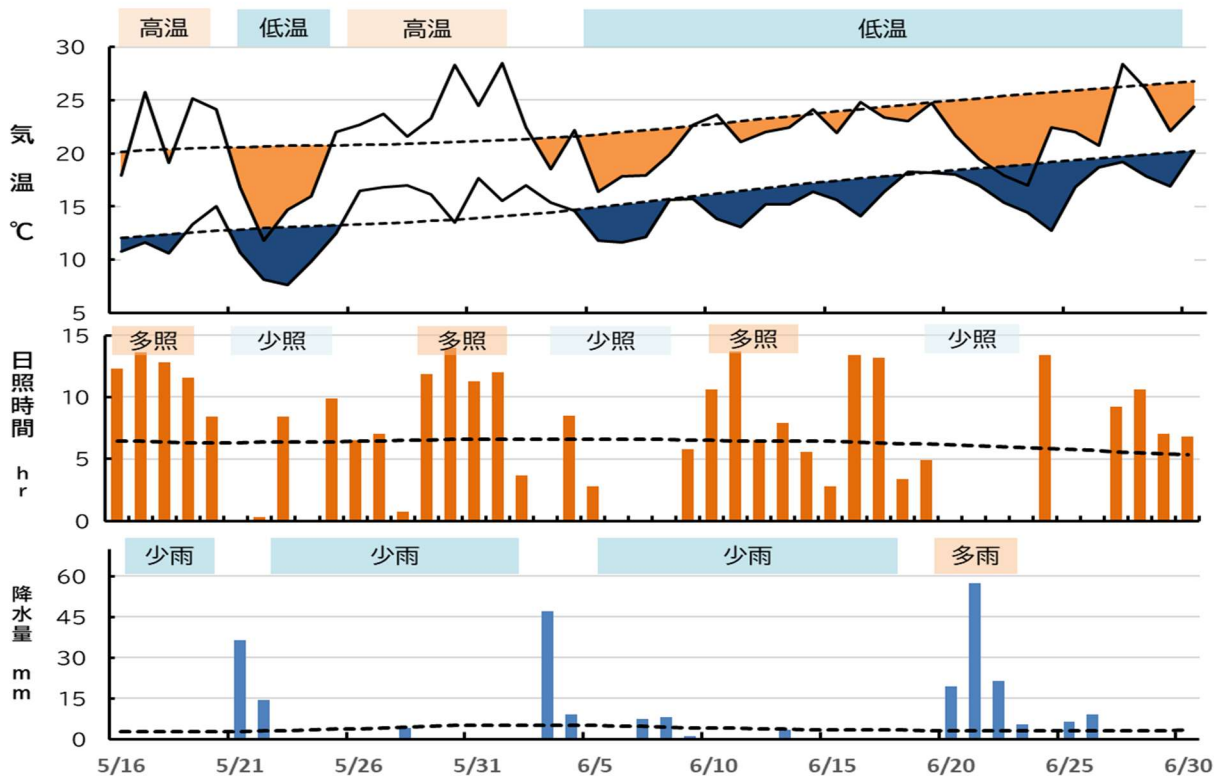


図1 田植後の気象経過 (アメダス石巻)  
※平年値は前5か年平均

## 水稻の生育状況

### <移植栽培>

- ◎草丈は、44.1~53.0cmで平年比90~94%と、平年より短くなっています。
- ◎莖数は、410~718本/㎡で、ひとめぼれは多く、ササニシキは少なくなっています。
- ◎葉数は、8.8~10.4枚で、ひとめぼれは平年並み、ササニシキはやや少なくなっています。
- ◎葉色は、40.5~42.0ポイントと、ひとめぼれで平年並みかやや濃く、ササニシキで濃くなっています。

### <直播栽培>

- ◎ほ場毎に差が見られます。ササニシキは、草丈・葉数とも平年並み、莖数は平年より多く、葉色は平年並みとなっています。ひとめぼれは、草丈が短く、莖数は前年よりやや少なく、葉数は平年並み、葉色は淡くなっています。

表1 生育調査ほ等の調査結果（7月1日現在）

品種名	地区名	田植月日	7月1日			
			草丈(cm) ( 平年比 )	莖数(本/㎡) ( 平年比 )	葉数(枚) ( 平年差 )	葉色(SPAD) ( 平年差 )
ひとめぼれ	石巻市広瀨	5/7	53.0 (94%)	577 (107%)	10.4 (+0.3)	40.5 (+0.8)
	東松島市矢本	5/9	51.3 (89%)	718 (123%)	9.9 (-0.1)	42.0 (+2.0)
	ひとめぼれ平均		52.2 (91%)	647 (115%)	10.2 (+0.1)	41.3 (+1.4)
ササニシキ	石巻市桃生	5/12	44.1 (90%)	554 (93%)	8.8 (-1.0)	41.4 (+3.2)
	石巻市稲井	5/9	46.5 (92%)	410 (79%)	9.2 (-0.5)	41.7 (+3.1)
	ササニシキ平均		45.3 (91%)	482 (86%)	9.0 (-0.7)	41.6 (+3.2)

品種名	地区名	播種日	7月1日			
			草丈(cm) ( 平年比 )	莖数(本/㎡) ( 平年比 )	葉数(枚) ( 平年差 )	葉色(SPAD) ( 平年差 )
乾直ササニシキ	石巻市河南	3/29	53.6 (103%)	894 (130%)	9.5 (+0.1)	36.6 (-0.7)
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	3/18	47.2 (88%)	498 (94%)	8.6 (-0.2)	38.0 (-4.9)



写真1 矢本ひとめぼれ



写真2 河南ひとめぼれ



写真3 乾直ササニシキ

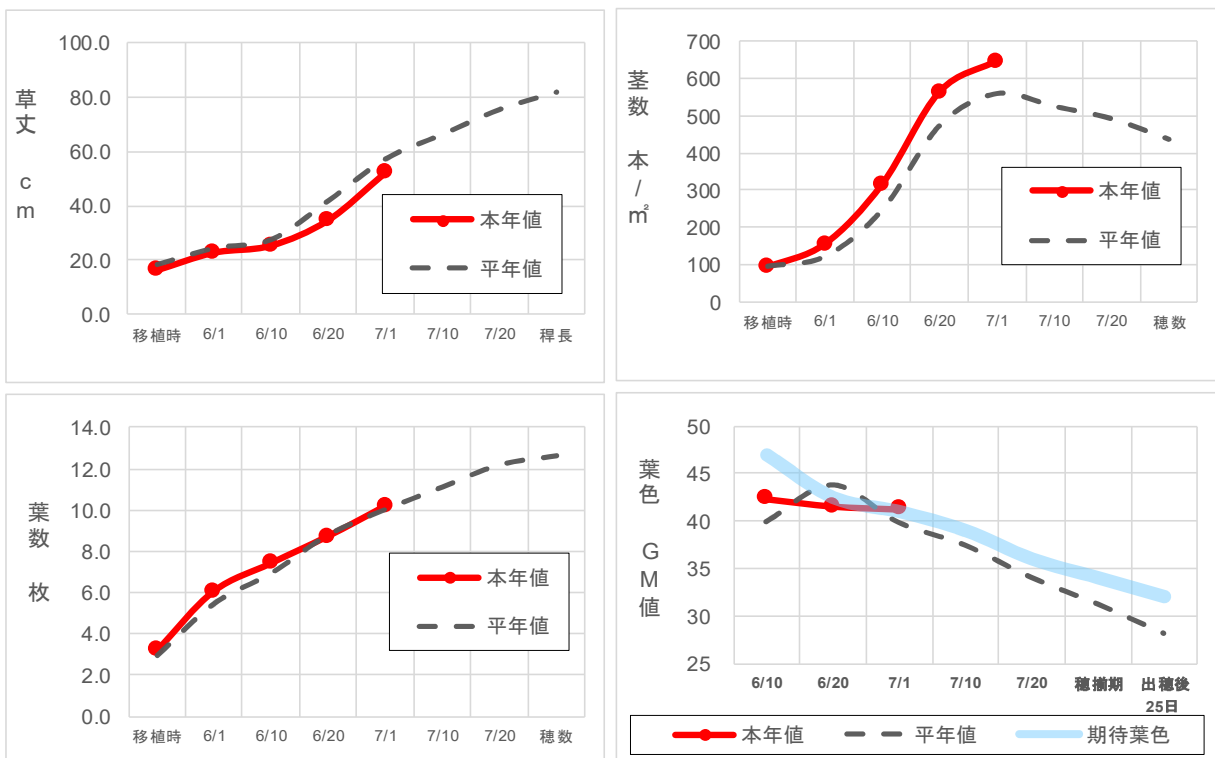


図2 ひとめぼれの生育経過（2ほ場平均）

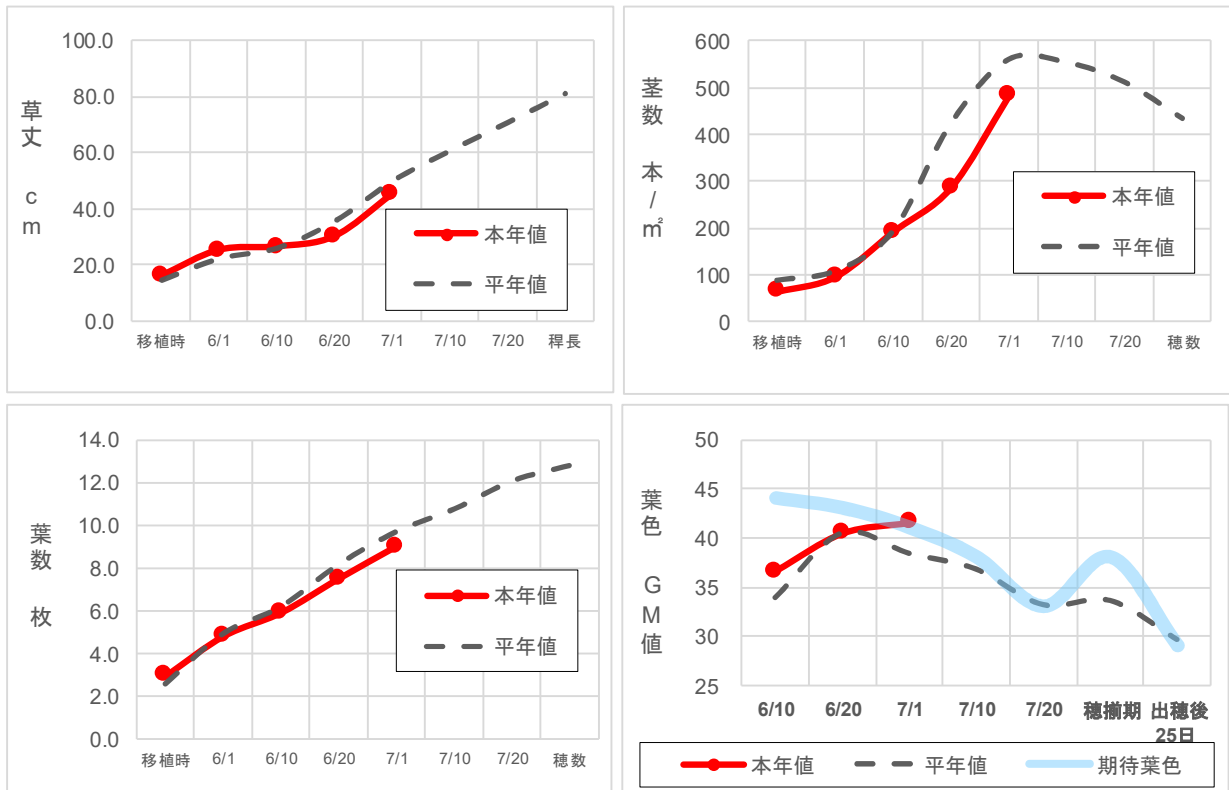


図3 ササニシキの生育経過（2ほ場平均）

**幼穂長調査及び生育ステージ予測**

昨年同様に、7月末に出穂期に達する見込み

7月1日の幼穂長調査では、幼穂はまだ確認できませんでした。  
 生育予測モデルによる生育ステージの予測では、石巻管内の田植最盛期である5月9日  
 植えでは、幼穂形成期は7月7日、**出穂期は平年並みの7月30日と見込まれます。**

表2 生育予測モデルによる出穂期予測（移植）

	田植始期 (5%) 5月3日	田植盛期 (50%) 5月9日	田植終期 (95%) 5月23日
幼穂形成期	7月3日	7月7日	7月15日
減数分裂期	7月13日	7月17日	7月25日
出穂期	出穂始期 (5%) 7月27日	出穂盛期 (50%) 7月30日	穂揃期 (95%) 8月5日
平年差	1日遅い	平年並み	3日早い

7/1以降の平均気温は前5か年平均値を利用  
 出穂期の平年値は前5か年平均値

**今後の管理**

1 水管理

- ・幼穂形成始期（出穂 25 日前）以降は吸水量が多くなるので、中干しを終了しましょう。
- ・中干し後に急に湛水状態にすると、土壌が強還元状態になって根腐れを起こすことがあるので、中干し直後のかん水は走り水程度に行い、その後は入水と自然落水を繰り返す間断かん水が基本です。用水不足の場合は飽水管理（足跡の水がなくなったらごく浅めに入水する。表土が十分湿る程度）を行ないましょう。飽水管理は、根の健全化が図られ、また、耐倒伏性が増加します。
- ・低温（日平均気温 20℃以下又は最低気温 17℃以下）が予想されるときは、幼穂を保温するために深水管理としましょう。

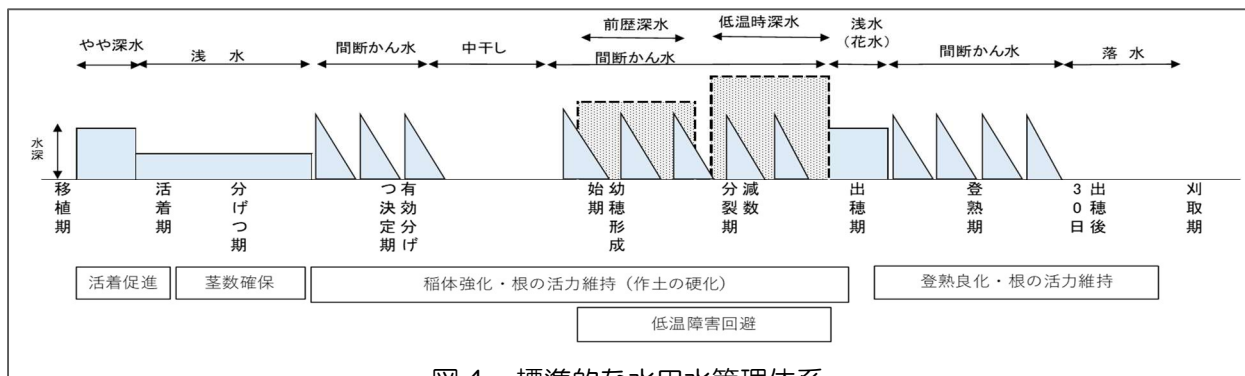


図4 標準的な水田水管理体系

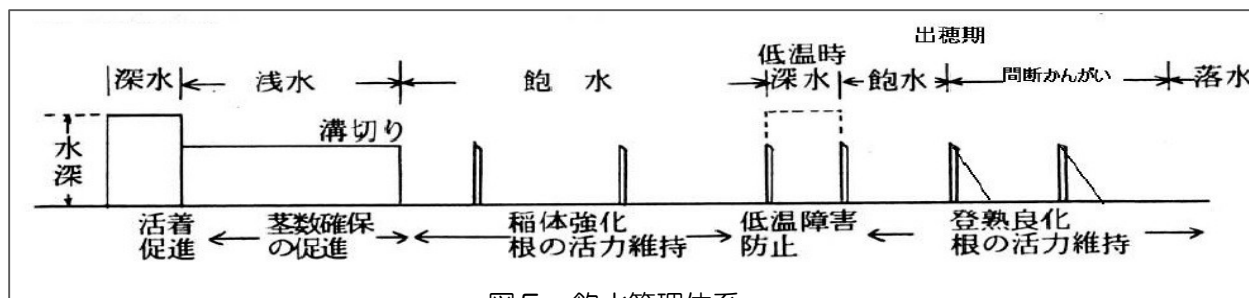


図5 飽水管理体系

## 2 追肥

- 基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、原則として追肥は行いません。しかし、地力が低下し、穂揃期以降に葉色が低下する場合は、生育量や葉色を観察し、追肥を検討しましょう。
- 速効性肥料を主体とした肥料を用いている場合は、生育状況（草丈・茎数・葉色）や病虫害の発生状況、天候、ほ場条件などを考慮しながら実施の有無を判断しましょう（表3～7参照）。
- **近年では、登熟期の高温の影響や穂揃期以降の葉色が低下し、白未熟粒が発生しました。適切な追肥で、葉色の低下を防ぎましょう。**
- 有機入り化成肥料は通常の化成肥料より肥効が遅く、また有機質肥料の割合が大きいほど肥効の発現が遅くなるので、使用する肥料の特徴を十分理解し、追肥時期を判断しましょう。
- 流し込み追肥用の肥料の活用や、粒状の追肥用肥料を種籾ネットに充填して水口からの流入施肥法（普及に移す技術第98号）などの省力的な施肥法を活用しましょう。

表3 穂肥窒素の施用時期と生産要因への影響

施用時期		生産要因への影響					
		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間長の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
穂首分化期	出穂前35～30日前	○	○		×	××	
幼穂形成期	出穂前25～20日前	○	◎	○		×	
減数分裂期	出穂前15～10日前		○	◎	◎		
穂揃期	出穂後～				○		×

◎効果高い、○効果あり、×悪影響あり、××悪影響強い

表4 幼穂形成期及び減数分裂期の葉色の目

品種名	幼穂形成期（出穂 25 日前）		減数分裂期（出穂 15 日前）	
	カラススケール	葉緑素計値	カラススケール	葉緑素計値
ひとめぼれ	4.2～4.5	37～39	3.9～4.2	35～37
ササニシキ	(4.2～4.5)	(37～39)	3.4～3.7	32～34
まなむすめ	3.9～4.2	35～37	-	-
だて正夢	(4.7～5.0)	40～42	(4.2～4.6)	37～39
金のいぶき	(3.6～3.9)	33～35	(3.1～3.4)	30～32

※（）内は参考値及び換算式からの計算値

表5 穂肥の標準的な窒素施用量の目安

品種	窒素施用量	
	出穂前25～20日前 (幼穂形成期)	出穂前15～10日前 (減数分裂期)
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg/10a	1.0kg/10a
ササニシキ	-	1.0～1.5kg/10a
まなむすめ つや姫 萌えみのり	2.0kg/10a	-
だて正夢	1.0kg/10a	1.0kg/10a
	幼穂形成期に追肥できない場合	2.0kg/10a

・今回の調査では、一部で茎数が多く葉色も濃い「倒伏危険域Ⅰ」へ近づいているほ場が見られました。状況に応じた追肥の調整や、適切なタイミングでの中干しを実施しましょう。

表6 幼穂形成期及び減数分裂期における倒伏指標値

幼穂形成期(草丈×m <sup>2</sup> 茎数×葉色:10 <sup>5</sup> )								減数分裂期(草丈×m <sup>2</sup> 茎数×葉色:10 <sup>5</sup> )									
茎数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	葉緑素計(SPAD502型)						倒伏 危険域	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	葉緑素計(SPAD502型)						倒伏 危険域
		38	40	42	44	46	48				34	36	38	40	42	44	
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4		550	60	11.2	11.9	12.5	13.2	13.9	14.5	
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8		550	65	12.2	12.9	13.6	14.3	15.0	15.7	
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3		550	70	13.1	13.9	14.6	15.4	16.2	16.9	
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7		550	75	14.0	14.9	15.7	16.5	17.3	18.2	I
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I	550	80	15.0	15.8	16.7	17.6	18.5	19.4	II
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II	550	85	15.9	16.8	17.8	18.7	19.6	20.6	II
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III	550	90	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8	21.8	III
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8		600	60	12.2	13.0	13.7	14.4	15.1	15.8	
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5		600	65	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2	I
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I	600	70	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5	II
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8	II	600	75	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.8	II
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5	III	600	80	16.3	17.3	18.2	19.2	20.2	21.1	III
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2	III	600	85	17.3	18.4	19.4	20.4	21.4	22.4	III
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	III	600	90	18.4	19.4	20.5	21.6	22.7	23.8	III
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2	I	650	60	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2	I
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1	II	650	65	14.4	15.2	16.1	16.9	17.7	18.6	II
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III	650	70	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0	II
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0	III	650	75	16.6	17.6	18.5	19.5	20.5	21.5	III
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	III	650	80	17.7	18.7	19.8	20.8	21.8	22.9	III
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8	III	650	85	18.8	19.9	21.0	22.1	23.2	24.3	III
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7	III	650	90	19.9	21.1	22.2	23.4	24.6	25.7	III
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II	700	60	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5	I
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8	III	700	65	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0	II
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9	III	700	70	16.7	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6	III
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1	III	700	75	17.9	18.9	20.0	21.0	22.1	23.1	III
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2	III	700	80	19.0	20.2	21.3	22.4	23.5	24.6	III

倒伏危険域

I 倒伏度2を超える確率5~20%

II 倒伏度2を超える確率20~50%

III 倒伏度2を超える確率50%以上

表7 倒伏危険性とその対策

倒伏危険域	生育状態	対策
倒伏危険域Ⅰ未満	正常	追肥可
倒伏危険域Ⅰ	やや過剰	追肥は控える、中干しの強化、場合により倒伏軽減剤散布
倒伏危険域Ⅱ	過剰	追肥不可、中干しの強化、飽水管理、倒伏軽減剤散布
倒伏危険域Ⅲ	かなり過剰	追肥不可、中干しの強化、飽水管理、倒伏軽減剤散布(使用基準の範囲内で早期)、部分的であれば株の間引きも有効

### 3 病害虫対策 ～ 葉いもち発生量は「平年並」～

- ・県内の葉いもち発生量は「平年並」、発生時期も平年並の7月第3半旬(7/11~7/15)と予想されています(6月24日 宮城県病害虫防除所発表)。  
アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM)では、6月13日に、「いもち病感染の準好適条件2」が出現しています。水田の見回りをこまめに行い、葉いもちの早期発見に努めましょう。
- ・紋枯病の発生量は「やや多」となっています。昨年は、紋枯病の発生が多かったため、ほ場に伝染源量はやや多いと考えられます。
- ・稻こうじ病の発生量は「平年並」です。
- ・斑点米カメムシ類の発生量は「平年並」、発生時期(第1世代成虫発生盛期)はやや早く、7月第3半旬(7/11~7/15)と予想されています。対策として、雑草や牧草の刈取りは早めに実施し、出穂の10日前までには終わらせましょう。

## 東北地方 1 か月予報

(7月4日から8月3日までの天候見通し)

令和8年7月2日仙台管区气象台 発表※抜粋

### <特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

### <予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率50%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	40	50
【降水量】	東北太平洋側	30	30	40
【日照時間】	東北地方	40	30	30

### <気温の階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1 週 目	東北地方	10	40	50
2 週 目	東北地方	10	30	60
3~4週目	東北地方	20	40	40

## 高温に関する早期天候情報(東北地方)

令和8年6月29日14時30分

仙台管区气象台 発表

東北地方 7月6日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.4℃以上

東北地方の向こう2週間程度の気温は、暖かい空気に覆われやすいため平年並か高く、7月6日頃からはかなり高くなる見込みです。

農作物や家畜の管理等に注意してください。また、熱中症対策など健康管理に注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には気象解説情報(高温)を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

## 宮城県農薬危害防止運動実施中!(6月1日から8月31日)

宮城県では、6月から8月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底し、農薬の販売、使用方法、性質に関する正しい知識及び関係法令等の周知を図ることで、農薬による事故等の発生を防止し、本県産農産物の「食の安全・安心」を確保することを目的に運動を実施しています。

## 農作業中の熱中症を予防しましょう!!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です!!

### \*予防のポイント\*

#### 暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



#### こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



### \*熱中症対策アイテム\*

#### 身体を冷やす

暑い時間帯の作業等が避けられないときに活用



#### 1人作業の備え

やむを得ず1人作業をする際のリスクを軽減したいときに活用



#### 環境改善

作業場を涼しくしたり、休憩の時間を高めたいときに活用



#### 単独作業は避ける

複数人で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



#### 熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用

